

標 題 : Dietary Fat Reduction and Breast Cancer Outcome: Interim
Efficacy Results From the Women's Intervention Nutrition Study
食事脂肪の減少と乳癌の転帰 : 女性の介入栄養研究からの一時的に有効な結果

著 者 : R. T. Chlebowski, et al. (米国 Harbor-UCLA 医療センター 生物医学研究所)

掲 載 誌 : J. Natl. Cancer Inst. 98: 1767-1776 (2012)

要 旨 :

背 景 : 前臨床試験および観察研究で食事脂肪摂取と乳癌との関連が示唆されるが、その関連はまだ論議の余地がある。脂肪摂取を減らす食事介入の効果を試験するためのランダム、追跡、多センター臨床試験を、初期乳癌を切除して従来の癌治療を受けている女性で、我々は実施した。

方 法 : 合計 2437 人の女性を 1994 年 2 月と 2001 年 1 月の間に 40 : 60 の比で食事介入群(n=975)または対照群(n=1462)に割当てた。60 ヶ月(中央値)の追跡後の、介入研究の資金が終わった時に、中間の解析を実施した。食事介入群と対照群との間の栄養摂取および身体計測値について平均の差を t 検定で比較した。
無再発生存率を Kaplan-Meier 解析、階層化ログランク検定および Cox 比例ハザードモデルを用いて調べた。統計処理は両側検定であった。

結 果 : 食事脂肪摂取は介入群で対照群よりも低く (12 ヶ月目の脂肪 g / 日が 33.3[95%信頼区間(CI)= 32.2 ~ 34.5] 対 51.3[95%CI = 50.0 ~ 52.7]、それぞれ $P < 0.001$)、統計的有意に対応し($P < 0.005$)、介入群で 6 ポンド (2.7kg) 低い平均体重であった。

合計 277 件の再発が報告され (局所、遠位または同側の乳癌再発、または新しい反対側の乳癌) 食事群女性 975 人中 96 人(9.8%)および対照群女性 1462 人中 181 人(12.4%)で報告された。対照群と比較した介入群の再発ハザード比は 0.76 であった (95%CI = 0.60 ~ 0.98、階層ログランクで $P = 0.077$ 、補正 Cox モデル解析で $P = 0.034$)。

食事介入の異なる影響はホルモンレセプター状況に基づくと、予備的な解析で示唆された。

結 論 : 体重に少し影響する食事脂肪摂取を減らす生活様式への介入は、従来の癌治療を受けている乳癌患者の無再発生存率を改善するとみえる。

元の計画で非介入群の長期継続が目玉され、募集完了後 3 年求められる。
